奥田　これまで地域で行っていた行事に参加してもらうことも一つですし、委員会として過去２年間行っている新春元気交歓会に集まってもらって意見を交わしてもらうことも一つ。もう一つは、地域の持っている知的財産を将来にわたって広げていく「温故知新大学」を計画していて、平成28年度から事業の一つに加えようと考えています。大きく分けてこの３つに交流の場を広げていこうと考えています。

市長　これから子どもたちもどんどん参加してくれるといいですね。

玉村　地域外から通っている子どもたちが圧倒的に多いので、地域に対して愛着を持ってもらうことや、逆に地域から信頼されて愛される学校になることはとても大事なことだと思います。そのためには、いろいろな地域の方と交流を深めていくことが一番いい。温故知新大学にも、ぜひ入学させていただければと思います。

市長　高校生が高校を卒業する前に、大学生になるわけですね。地域とのお話を進めてきましたが、さて、玉村さんにもう一つお伺いします。「こんな学校にしていきたい」あるいは「こうなっていけば良い」という目標はありますか。

こだわりは「人の中で人を育てる」良い環境をいただいた

玉村　私たちが長年こだわってきたのは、「人の中で人を育てる」ということです。いろいろな意味で、人の中で傷ついてきた子どもたちなので、人の中できちんと育ててあげたいと思っています。この旧大井小学校の校舎を地域の方と共有することで、教員、生徒だけでなく、たくさんの人と交流させていただいて、子どもたちを育てることができる。そういった良い環境をいただいたと思っています。それをどんどん広げて、私たちの理想とする教育を実現したいと思っています。

市長　すでに来年度の生徒募集も始まっているのですか。

玉村　はい。中学校、高校から問い合わせをいただいています。前の学校では合わなかったけれど、もう一度学校生活をしたい、そういう生徒にぜひチャレンジしてほしいです。

市長　105年の歴史ある旧大井小学校ですが、地域の皆さんのご理解の中で、どんどん新しい形が進んでいます。学校が学校として再生する素晴らしい事例が、今進みつつあります。この旧大井小学校の校舎が、これからも地域の皆さんの活動の場として、避難所として活用されるのはもちろんのこと、さらに学びの場として、若い子どもたちが新しい息吹を吹き込む、そういった素晴らしい事例になりつつあるということをご紹介しました。

　奥田さん、玉村さん、本日はありがとうございました。

奥田　ありがとうございました。

玉村　ありがとうございました。

市長対談は津市ホームページ・市長の部屋の市長対談でもご覧いただけます。　HP 津市　市長対談　検索